

日本自動車殿堂
「2024 殿堂者（殿堂入り）」「2024 歴史遺産車」
「2024～2025 日本自動車殿堂イヤー賞」4 賞決定

NPO 法人 日本自動車殿堂 会長 藤本 隆宏(早稲田大学 教授、東京大学 名誉教授)

事務局：〒東京都千代田区神田神保町1-32 3F

TEL:03-3291-8511 / FAX:03-3291-4418 <https://www.jahfa.jp>

1. 2024 日本自動車殿堂 殿堂者（殿堂入り） 5名



酒井 文人
 モーターサイクルレースと
 モビリティ文化の道を拓く



下川 浩一
 自動車産業研究の道を拓き
 国際ネットワークを構築



内山田 竹志
 世界初の量産ハイブリッド車開発と
 次世代モビリティを主導



大聖 泰弘
 エンジン研究の道を極め
 国内外の新たな研究を支援



原 昌宏
 日本発世界標準
 誇り高きQRコードの発明者

2. 2024 日本自動車殿堂 歴史遺産車 4車



NS号
 (1909年)



トヨタ2000GT
 (1967年)



スズキ アルト
 (1979年)



スバル レガシィ
 (1989年)

3. 2024～2025 日本自動車殿堂 イヤー賞 4賞



日本自動車殿堂
 カーオブサイヤー
 トヨタ クラウン (セダン)



日本自動車殿堂
 インポートカーオブサイヤー
 ボルボ EX30



日本自動車殿堂
 カーデザインオブサイヤー
 トヨタ クラウン (スポーツ)



日本自動車殿堂
 カーテクノロジーオブサイヤー
 e-SKYACTIV R-EV: マツダ MX-30 Rotary-EV

2024 殿堂者（殿堂入り） 2024 歴史遺産車 2024～2025 日本自動車殿堂イヤー賞

NPO 法人 日本自動車殿堂 会長 藤本 隆宏(早稲田大学 教授、東京大学 名誉教授)

事務局: 〒東京都千代田区神田神保町1-32 3F

TEL:03-3291-8511/FAX:03-3291-4418 <https://www.jahfa.jp>

**表彰式典:2024年(令和6年)11月13日(水曜日)13時30分から、
学士会館(東京都千代田区神田錦町3-28)にて。
オフィシャルサイトにて同時配信します(<https://www.jahfa.jp>)**

1. 2024 日本自動車殿堂 殿堂者（殿堂入り） 5名

酒井 文人 氏

(全日本モーターサイクルクラブ連盟 初代理事長、株式会社八重洲出版 元代表取締役社長、1924～2002)

モーターサイクルレースとモビリティ文化の道を拓く

酒井文人(さかい・ふみと)氏は、戦後のモーターサイクルレースの開催に携わり、二・四輪誌を刊行し健全なライダー・ドライバーを育成、国産メーカーの国際競争力を高める礎を築き、日本のモータリゼーション文化を高めることに、多大な貢献をされました。その偉業をたたえ、永く伝承して参ります。

下川 浩一 氏

(法政大学名誉教授、東海学園大学名誉教授、1930～2016)

自動車産業研究の道を拓き国際ネットワークを構築

下川浩一(しもかわ・こういち)氏は、米国自動車産業の研究を皮切りに、日米自動車産業の経営分析に取り組み、日本的経営の復興を提言するとともに、国際的な自動車産業研究のリーダーとして、国際ネットワークを構築されました。その偉業をたたえ、永く伝承して参ります。

内山田 竹志 氏

(トヨタ自動車前会長、トヨタ自動車 Executive Fellow、1946～)

世界初の量産ハイブリッド車開発と次世代モビリティを主導

内山田竹志(うちやまだ・たけし)氏は、自動車エンジニアとして21世紀の資源環境問題に対応するため燃費向上を目指し、世界初の量産ハイブリッドシステムを開発、環境対応の主流技術として世界中に定着させるとともに、幅広いエネルギー問題への取り組みを主導されました。その偉業をたたえ、永く伝承して参ります。

大聖 泰弘 氏

(早稲田大学名誉教授、1946～)

エンジン研究の道を極め国内外の新たな研究を支援

大聖泰弘(だいしょう・やすひろ)氏は、自動車排出ガスの浄化技術研究およびディーゼルエンジンの研究に取り組み、NOx などの低減技術やエンジンの高効率化を提言、電気自動車の採用を促進する急速充電システムの開発など、永年にわたり日本の自動車技術の向上に貢献されました。その偉業をたたえ、永く伝承して参ります。

原 昌宏 氏

(デンソーウェーブ首席技師、福井大学客員教授、名古屋学院大学特任教授、1957～)

日本発世界標準 誇り高き QR コードの発明者

原 昌宏(はら・まさひろ)氏は、1 次元コードに代わる新技術の開発に取り組み、問題点を徹底検討、誤認を避け、誤り訂正機能を持つ大容量かつ高速読み取りが可能な QR コードを開発し、自動車業界のみならず広く世界に開放し、日本発の世界標準を生み出しました。その偉業をたたえ、永く伝承して参ります。

2. 2024 日本自動車殿堂 歴史遺産車 4車

NS 号 (1909 年)

NS号は明治末期に島津樞蔵氏により独自に開発された、空冷単気筒エンジンを搭載した日本初のモーターサイクルで、その後の量産モデルへと続く国産モーターサイクルの源流となった、歴史的名車である。

トヨタ 2000GT (1967 年)

トヨタ 2000GT は自社の技術を世に問うために、ヤマハの協力を得て開発された。国際速度記録を樹立、流麗なスタイリングを持つ日本製 GT カーとして世界的に高い評価を得た、歴史的名車である。

スズキ アルト (1979 年)

スズキ アルトは軽自動車の排気量が 550 cc への拡大を機に、その本質を捉え、ムダや飾りを省いた低価格車として登場。当時低迷していた軽自動車市場を復活させ、今日の軽自動車の地位を確固たるものにした、歴史的名車である。

スバル レガシィ (1989 年)

スバル レガシィは富士重工業の世界戦略車として、走りの質の向上を目指したイノベーションから生まれ、AWD 技術やステーションワゴン市場を開拓するとともに、その後のスバル独自の基幹技術を確立した、歴史的名車である。

3. 2024～2025 日本自動車殿堂 イヤー賞 4賞

2024～2025 日本自動車殿堂カーオブザイヤー（国産乗用車）

「トヨタ クラウン（セダン）」および開発グループ

上級セダンの新しいイメージ創造に挑戦
FCEVを含む多様なパワートレインで環境に対応
パーソナルとビジネスユースを高い次元で両立

2024～2025 日本自動車殿堂インポートカーオブザイヤー（輸入乗用車）

「ボルボ EX30」およびインポーター

日本にフィットするSUVタイプのコンパクトEV
オリジナリティの高いモダンでスマートなデザイン
高い運動性能と実用的な航続距離を実現

2024～2025 日本自動車殿堂カーデザインオブザイヤー（国産乗用車）

「トヨタ クラウン（スポーツ）」およびデザイングループ

クラウンらしさを覆す大胆で戦略的なスタイリング
トヨタのフラッグシップSUVとして力強い造形
高品質の色とマテリアルを生かした魅力的な内装

2024～2025 日本自動車殿堂カーテクノロジーオブザイヤー（国産乗用車）

「e-SKYACTIV R-EV：マツダ MX-30 Rotary-EV」および開発グループ

ロータリーエンジンを活用した新ハイブリッド
コンパクトな電動駆動ユニットの実現
既存技術を発展させ新たな分野への挑戦

【問い合わせ先】

日本自動車殿堂 事務局

担当 武川 明

info@jahfa.jp

TEL:03-3291-8511 FAX:03-3291-4418

* 日本自動車殿堂の組織、活動実績などについては <https://www.jahfa.jp> をご覧ください。

* 受賞者(車)の詳細、写真データは11月6日(水)正午に公開いたします。

<https://www.jahfa.jp>

参考資料 1

2024～2025 日本自動車殿堂イヤー賞投票結果(各賞ベスト3)

2024～2025 日本自動車殿堂カーオブザイヤー (MAX:170点)	
1位 「トヨタ クラウン(セダン)」	110点
2位 「ホンダ フリード」	78点
3位 「スズキ スイフト」	52点
2024～2025 日本自動車殿堂インポートカーオブザイヤー (MAX:170点)	
1位 「ボルボ EX30」	94点
2位 「メルセデス・ベンツ Eクラス セダン」	68点
3位 「ジープ アベンジャー」	60点
2024～2025 日本自動車殿堂カーデザインオブザイヤー (MAX:170点)	
1位 「トヨタ クラウン(スポーツ)」	136点
2位 「三菱 トライトン」	74点
3位 「トヨタ ランドクルーザー“250”」	68点
2024～2025 日本自動車殿堂カーテクノロジーオブザイヤー (MAX:140点)	
1位 「e-SKYACTIV R-EV: マツダ MX-30 Rotary-EV」	100点
2位 「プラグイン充電機能を持つ新型燃料電池 SUV:ホンダ CR-V e:FCE」	72点
2位 「多様なニーズとカーボンニュートラルに応える2つのパワートレイン:トヨタ クラウン(セダン)」	72点

参考資料 2

日本自動車殿堂・イヤー賞の選考要領(抜粋)

1. イヤー賞 4賞の選考

当該年度において発表・発売された新型車から「最も優れた乗用車および開発チーム等を表彰する(日本自動車殿堂カーオブザイヤーならびに同カーデザインオブザイヤー、同カーテクノロジーオブザイヤーは国産乗用車から、同インポートカーオブザイヤーは輸入乗用車からそれぞれ選出する)。

2. 年次の選考対象期間

本年度の新型車の対象期間は、2023年10月16日から2024年10月15日までをその期間とする。

3. 選考方法

(1)イヤー賞4賞は、それぞれについて評価項目を設け、それに準拠しながら総合的に選考を行なう(詳細は当会ウェブサイト <https://www.jahfa.jp> 参照)。

(2)選考委員は、自動車研究に係る大学教授や研究開発機関の研究者等とし、4賞に延べ65名があたる。

以上